

攻という仕事 師の指導で、大学上級柄、海外出張 生の時にはメンデルスゾが多い。そう ーンやブラームスの協奏した合間を縫 曲を何とか弾けるようにって音楽会に通うのは無 なった。最近では先生の腰類の楽しみである。先日 痛、私の首の骨の不具合もウィーンでラ・ボエー でレッスンを受けられな ムを見たが、そうした折 いのが残念である。

りに思い出す方が いる。

大学ではオーケ

## 師の音楽

東京芸術大学講

師であった五十君

守康先生は生涯を

通してのヴァイオ

リンと人生の師で

ある。先生はおよ

そ打算とは縁遠い

方で、往々にして

毎週土曜日のレッスンは

夜八時から深更に及び、

当時珍しい外車で家まで

送っていただいた。大工

仕事も超一流で、譜面台

から家具まで手作り。無

精な私の楽器が汚れてい

るのをご覧になり一時間

以上もかけてピカピカに

磨いていただいたことも

恒 光

ストラに所属、先 輩のビオラ奏者上 野尚一さん（現朝 日新聞社主）兄弟

口

に出会い、私の音 楽人生はさらに充

山

実した。上野家で は頻繁に家庭音楽

会が開かれ、テニ

スの石黒修さんら多彩な

顔ぶれが出入りしてい

た。私は幸いにもその常

連で、夜更けまで弦楽四

重奏を楽しみ、徹夜で音

楽談義に花を咲かせた。

お互いに時間ができたら

またやろうと約束してい

る。（やまぐち・みつづ

ね 慶応義塾大学教授）